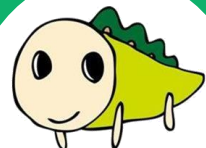


第1回グリーンインフラ推進会議

ニュースレターVol.1



気候変動などにより増加する豪雨被害を緩和するために、杉並区ではこれまでの河川、下水対策に加えて、自然の持つ多様な機能を利用した「グリーンインフラ」による流域治水対策に取り組みます。そこで、区民の皆さまと学び、体験し、行動していくためのワークショップを3回シリーズで開催しています。

◎ (仮称) 第1回グリーンインフラ推進会議を開催しました！

「第1回グリーンインフラ推進会議」を開催しました。杉並区の水の現状とグリーンインフラを学んだあとに、柏の宮公園をフィールドとした雨庭の整備についてグループごとにアイデアを話し合いました。



日時：令和6年10月27日（日）13:30～16:30 参加者：24名
場所：高井戸中学校、柏の宮公園



第1回

杉並区の水の現状を知り、グリーンインフラについて考えよう！

第2回

グリーンインフラの事例雨庭をつくってみよう！

第3回

杉並区らしいグリーンインフラのビジョンを話し合おう！

◎ 主な内容

1. 学びの時間



杉並区の水の現状として浸水被害や下水道の状況を解説するとともに、世界で取り入れられているグリーンインフラの考え方や事例を紹介しました。合流式下水道の課題に雨庭が効果的なのか？など質問をいただきました。



2. 体感する時間

多くの人が歩いて締め固まった地面の土と、雨庭をつくるときと同じように土を軽く耕して改良したところにて、水が浸み込む量の違いを実際に体感しました。土壌改良箇所では、どんどん水が浸み込むを確認でき、「こんなに違うんだ」と驚きの声があがりました。



3. 現地を調べる時間

柏の宮公園で見られる雨水の課題がみられる5か所を見て回り、課題とその対応策を確認しました。その後はそれぞれのグループが担当する課題箇所を重点的に確認し、具体的にどのような雨庭づくりができそうかを参加者一人ひとりが考えてアイデアを出し合いました。アイデア出しでは、杉並区で活動する環境団体のみなさんのご意見も参考にしました。



雨庭（あめにわ）とは・・・

土壌や植栽の改善によって、雨水が浸み込みやすく、また貯めやすくなります。これを利用して、個人宅の庭などに雨水を浸透させる場所をつくります。通常、屋根に降る水は雨樋をつたい下水に流れ込みますが、雨樋を切って浸み込みやすい場所に浸み込ませます。これを雨庭（あめにわ）とよびます。

4. 考える時間

考える時間では、グループごとに芝生広場にてビニールシートを広げ、各自が考えたアイデアを発表して、とりまとめました。皆さんのアイデアは具体的などころまで踏み込んだハイレベルなものでした！



参加者の皆さんのやる気を感じられる回答でした

グリーンインフラとは・・・

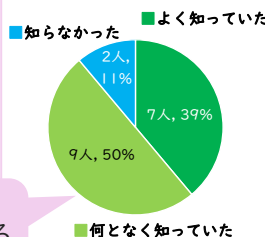
自然環境が持つ多様な機能を社会の様々な課題解決に活用するという考え方です。

自然が持つ機能とは、生物多様性、流出抑制、地域の魅力づくり、水循環の健全化、健康、コミュニティ活性化などがあります。

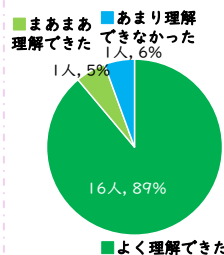


参加者アンケート

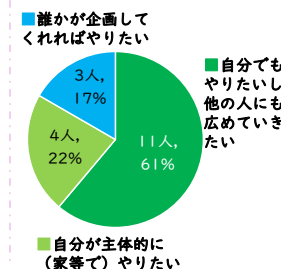
グリーンインフラの認知度



グリーンインフラの考え方の理解



グリーンインフラの活動のやる気度合い



◎ 今後の予定

12月14日（土）に参加者のみなさんのアイデアをもとに、柏の宮公園にて雨庭づくりを実践します。※雨天時は15日に順延



【お問合せ・ご意見】 皆さまのご意見もお待ちしています

◎ご意見 すぎなみボイス

『みんなのグリーンインフラ 水害対策について考えよう！』（要登録）



すぎなみボイス

◎お問合せ

杉並区 土木計画課 担当：中村・峰山・尾崎
TEL：03-3312-2111（内線3422）
FAX：03-3312-2907

